

カノコキセワタガイ *Philinopsis* sp.

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底にすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾、伊勢湾知多半島沖のアマモ場周辺で現在でも採集されるが、個体数は少ない(木村, 1996; 木村, 2000)。和田ほか(1996)では危険にランクされている。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。



蒲郡市沖水深 2 m(ドレッジ), 2001 年 9 月 13 日, 木村昭一 採集

【形態】

体長約 4 cm の長方形の軟体部で、暗褐色の地色に灰白色の小班が散在していて、独特な外見を呈する。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように潮下帯のアマモ場周辺に分布する。

【世界及び国内の分布】

日本、熱帯インド、西太平洋。国内では相模湾以南から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなアマモ場の面積が県内では著しく減少しているため、本種の生息場所、個体数とも減少していると考えられる。

【保全上の留意点】

アマモ場を含めた内湾干潟から潮下帯の生息環境を保全する。干潟の保全や、水質の富栄養化を防止することが必要である。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)